慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	コモディティ化時代の商品開発マネジメントにおける組織間連携について
Sub Title	
Author	岩田, 哲哉(Iwata, Tetsuya) 大林, 厚臣
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2008
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2008年度経営学 第2295号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2295

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	大林厚臣研究会	学籍番号	80730167	氏名	岩田哲哉

（論文題名）

コモディティ化時代の商品開発マネジメントにおける組織間連携について

（内容の要旨）

R&D 部門とマーケティング部門による組織の壁を超えた議論と合意形成は、商品開発を成功させるために重要である。市場ニーズが不透明と言われる中では、早い段階で両部門が合意形成を行い、スピード感のある商品開発を行う必要性が高まっていると考える。本研究では諸品開発フローの早期段階として 3 つのタスクを定義した。「開発方針策定」、「商品アイデア創出のための情報交換」、「開発の意思決定」である。早期の合意形成により、創出された商品アイデアを両部門が一緒になって育てていこうとする。その結果、商品開発の成功確率が高まるのではないかと考える。また、連携を成功させるために、関係部門間の異動によって構築されるキャリア連携度が少なからず影響していると考える。

そこで、家電業界 3 社、デジタルカメラ業界 2 社、自動車業界 3 社を対象として、上記タスクにおける R&D 部門とマーケティング部門の連携実態、およびキャリア連携度の実態調査を行った。

＜成果１＞ タスク連携実態、キャリア連携度の実態把握ができた

8 社の各タスクにおける連携度およびキャリア連携度の実態を聞き出すことができた。タスクの特徴については、ネットワークの中心性を軸に「特定の中心が存在」、「2 部門のトップ・ミドルが連携」、「特定の中心が不在」に分けることができた。キャリアについては、「多様性重視」、「技術管理重視」、「専門性重視」に分けることができた。

＜成果２＞キャリア連携度がタスク連携に与える影響がわかった

業界内でシェアを高めている企業ほど、キャリア連携が進んでいた。そして、キャリア連携が進むとタスクの連携も密になることがどの業界にも共通していた。つまり、キャリア連携がタスクの連携度合いを高め、その結果として商品開発の成功につながっているという見方ができる。

＜成果３＞シェアを高めている企業とそうでない企業の連携施策の差異を抽出した

業界内でシェアを高めている企業ほど、組織間連携施策の導入を複数導入していた。特に直接的な連携施策だけでなく、長期的視野で間接的に影響を及ぼす連携施策も導入していることが特徴的であった。成果２に示したキャリア連携も、間接的に影響を及ぼす効果があると推察される。